

傷寒論 厥陰病篇

○凡厥者 陰陽氣不相順接 便為厥

○手足厥寒 脈細欲絕者 當歸四逆湯主之 若其人內有久寒者 宜當歸四逆加吳茱萸生姜湯

金匱要略

婦人雜病脈證并治 第二十二

○婦人之病 因虛積冷結氣 為諸經水斷絕 至有歷年。血寒積結胞門。

寒傷經絡 凝堅在上 嘔吐涎唾 久成肺癰 形体損分 在中盤結 繞臍

寒疝 或兩脇疼痛 與臈相連 或結熱中 痛在關元 脈數無瘡 肌若魚

鱗 時著男子 非止女身 在下未多 經候不勻 令陰掣痛 少腹惡寒

或引腰脊 下根氣衛 氣衛急痛 膝脛疼煩

奄忽眩暈 狀如厥癰 或有憂慘 非傷多嘔 此皆帶下 非有鬼神 久則

羸瘦 脈虛多寒 三十六病 千變万端 審脈陰陽 虛實緊弦 行其針藥

治危得安 其雖同病 脈各異源 子當辯記 勿謂不然

金匱要略

腹滿 寒疝 宿食の病の脈 証と治

○ 跌陽脈微弦 法當腹滿 不滿者必便難 兩胠疼痛 此虛寒從下上也
當以溫藥服之

○ 腹滿時減 復如故 此為寒 當與溫藥

○ 夫瘦人繞臍痛 必有風冷 穀氣不行 而反下之 其氣必衝
不衝者 心下則痞

○ 腹中寒氣 雷鳴切痛 胸脇逆滿 嘔吐 附子粳米湯主之

○ 心胸中大寒痛 嘔不能飲食 腹中寒 上衝皮起 出見有頭足 上下
痛而不可觸近 大建中湯主之

○ 脇下偏痛發熱 其脈緊弦 此寒也 以溫藥下之 宜大黃附子湯

○ 寒氣厥逆 赤丸主之

○ 腹痛 脈弦而緊 弦則衛氣不行 即惡寒 緊則不欲食 邪正相搏
即為寒疝 寒疝繞臍痛 若發則自汗出 手足厥冷 其脈沈緊者 大烏頭
煎主之

○ 寒疝腹中痛 及脇痛裏急者 當歸生姜羊肉湯主之

○ 寒疝腹中痛 逆冷 手足不仁 若身疼痛 灸刺諸藥不能治

(抵当) 烏頭桂枝湯主之

諸病源候論 第二十卷

疝病諸候十一論

○疝の総論的について

諸疝候 七疝候 五疝候

もろもろの疝は、陰気が腹内に積つて、それにまた寒気が加えられて起こり、榮衛の調和が乱れて血気の運行が悪くなる。そこで寒冷の外邪が腹内に入つて疝となるのである。疝は痛みである。疝になると下腹が痛んで、大小便が快通しなくなったり、手足がひどく冷えて臍の回りが痛み、ひどく痛む時には冷汗が流れる。また冷気が下から上逆して胸腹に衝きより胸が痛む。また腹がひきつれて痛むこともある。緊脈は疝の脈である。

○疝の具体的病証について

寒疝候 寒疝心痛候 寒疝腹痛候 寒疝心腹痛候 心疝候

饑疝候

○疝の積聚又は瘕の合病について

寒疝積聚候。疝瘕候

○寒疝候

寒疝者、陰氣積於内、則衛氣不行、則寒氣盛也。故令惡寒不欲食、

手足厥冷、繞臍痛、自汗出、遇寒即發、故云寒疝也。

其脈弦緊者是也

○寒疝心痛候

夫寒疝心痛、陰氣積結所生也。陰氣不散、則寒氣盛、則痛上下無常處、冷氣上衝於心、故令心痛也。

○寒疝腹痛候

此由陰氣積於內、寒氣結搏而不散、腑臟虛弱、故風邪冷氣、與正氣相擊、則腹痛裏急、故云寒疝腹痛也。

○寒疝心腹痛候

此由腑臟虛弱、風邪客於其間、與真氣相擊、故痛。其痛隨氣上下、或上衝於心、或在於腹、皆由寒氣所作、所以謂之寒疝心腹痛也。

○心疝候

疝者痛也、由陰積於內、寒氣不散、上衝於心、故使心痛、謂之心疝也。其痛也、或如錐刀所刺、或陰陰而痛、或四支逆冷、或唇口變青、皆其候也。

○饑疝候

陰氣在內、寒氣客於足陽明、手少陰之絡、令食竟必饑、心為之痛、故謂之饑疝。

○寒疝積聚候

積聚者、由寒氣在內所也。血氣虛弱、風邪搏於腑臟、寒多則氣澁、氣澁則生積聚也。積者陰氣、五臟所生、始發不離其部、故上下有所窮已。

聚者陽氣、六腑所生也、故無根本、上下無所留止。但諸臟腑受邪、初未能為積聚、邪氣留滯不去、乃也積聚。其為病也、或左右脇下如覆杯、或臍上下如臂、或胃脘間覆大如盤、羸瘦少氣、或洒淅寒熱、四支不收、飲食不為肌膚、或累累如桃李、或腹滿嘔泄、寒即痛。故云寒疝積聚也。

其脈馱而緊、積聚。浮而牢、積聚。牢強急者生、虛弱急者死。

○疝瘕候

疝者痛也、瘕者仮也。其病雖有結瘕而虚仮可推移、故謂之疝瘕也。由寒邪与臟腑相搏所也。其病、腹内急痛、腰背相引痛、亦引小腹痛。

脈沈細而滑者、曰疝瘕、緊急而滑者、曰疝瘕。

方云、乾脯曝之不燥者食之、成疝瘕。

七疝

厥疝 — 厥逆して心痛し、足が寒冷し飲食すると嘔吐して食物が納まらないもの。

癥疝 — 腹中に急に氣満が起こり心下が疼痛し、氣が結んで手のような形の塊りを作るもの。

寒疝 — 寒冷な飲食物をとると腸下と腹部に疼痛が起こるもの。

氣疝 — 腹中が突然に脹満し、また突然に減退して疼痛があるもの。

盤疝 — 腹痛の部位が臍傍にあるもの

附疝 — 腹中の臍下に積聚があつて痛むもの。

狼疝 — 少腹から前陰部にかけて疼痛があり、大便が出にくいもの。

およそこれらの七疝は、すべて血氣が虚弱であつて、飲食や寒温が不適切であるような者に起こるものである。

疝気症候群 A型（大塚敬節）

1. 手足の寒冷を訴え、甚だしいものは肩から足にまで水が流れるようだと訴える。

2. 慢性に経過する下腹痛があり、それが腰痛、四肢痛にまで及に時には背痛・頭痛を訴えるものもある。

3. 疼痛の本体を近代医学的な検索によって明確にしがたいことが多い。神経性のものと診断される傾向がある。

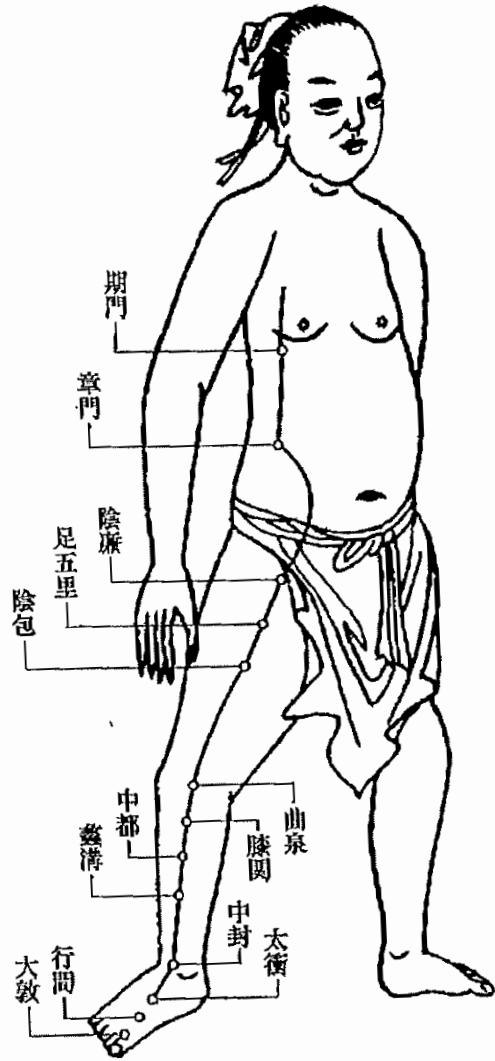
4. 肝経の変動によつて起こると考えられる症状が多く、生殖器・泌尿器からの障害が多く尿が漏れる。また、夜間の失禁、性交不快のため性交を嫌悪する。性交によつて症状が増悪する。性欲がない。ふにんの傾向がある。そのため離婚して独身生活を送り、また結婚をしないものが多い。

5. 開腹手術、殊に子宮筋腫や卵巣囊腫の手術、妊娠中絶、帝王切開、下腹や腰部の外傷などの既往歴のあるものが圧倒的に多い。

6. 当帰四逆加呉茱萸生姜湯の服用二、三週間で著効が現れる。

7. 婦人に多く、男性にはまれである。

第十二経 足の厥陰肝経



◎冷え——↓昔から疝として存在していた

「冷え」は誰にでも起こり得る
風雨、寒気にさらされて体温が低下する

冷え性↓冷え易い体質 血液循環のよくない身体
冷え症↓冷えが身体に蓄積されて多彩な症状が現れた状態

「冷え」はあらゆる機能を低下させる

血行動態に影響

自律神経系に影響、各臓器に影響

体のあちこちが痛む

頭痛、胸痛、腹痛、神経痛、生理痛 等

心も冷える ← 不安感、焦燥感

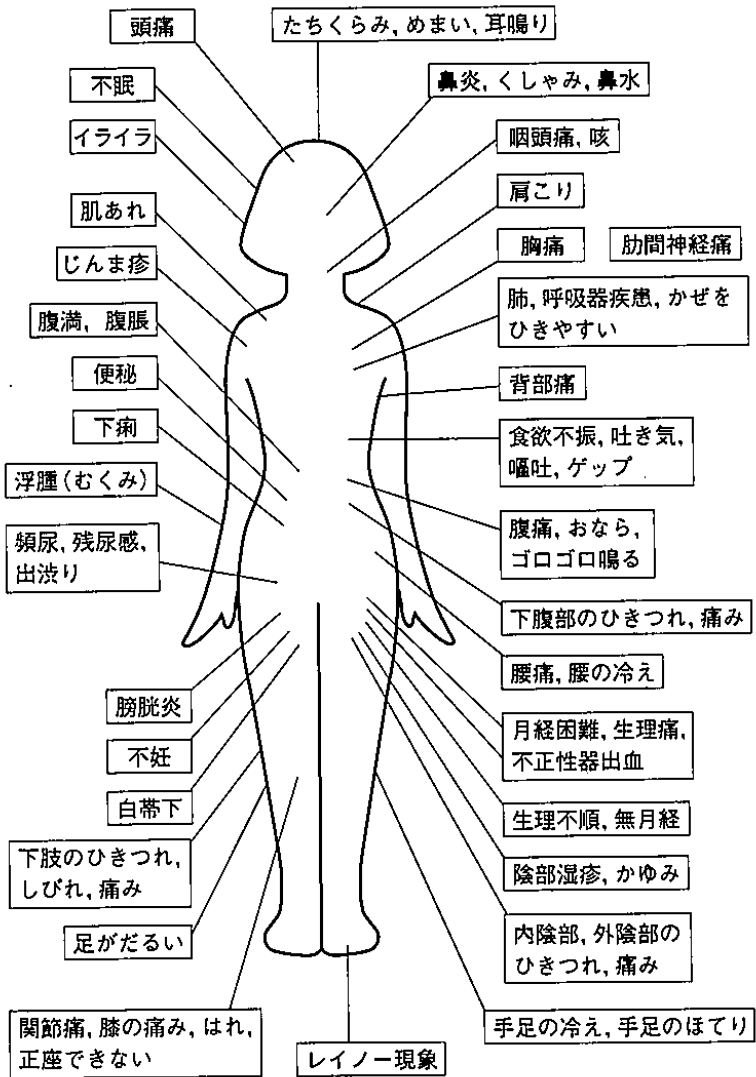


図1 冷えからおきる諸症状

冷えをどのように捉えるか

- ・ 体力のある人は寒さに対して直ぐ反応し、血管の収縮も早く起る
- ・ 体力のある人 肥満の人は夏に「冷え」をためやすい
- ・ 虚弱な人 体力のない人は、血管や筋力が弱っているため、血管収縮等の寒さに対する防御反応が遅れ、体温放散後に寒いと感るので、寒さのダメージが倍加し冷えにつながる

冷えを惹起させる要因と予防

1 外気温の変化

↳ 身を守る衣類

- 冬 防ぐ衣類がいろいろある
- 夏 無防備

↳ 住居

- 冬 暖房
- 夏 冷房

2 食物

内臓を冷やさないとり方
旬のものを食べる

3 睡眠

早寝早起き

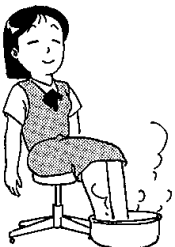
レッグウォーマーや腹巻きを使う



②温かい飲み物や食べ物をとる



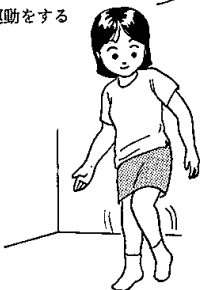
④足湯をする



⑥軽い運動をする



⑧軽い運動をする



いますぐできる冷房対策

気血水の異常

	症状	使用薬方	
気の異常	上衝	頭痛、めまい、冷えのぼせ、動悸、顔面紅潮など	桂枝湯類
	気鬱	抑うつ気分、不安感、梅核気	半夏厚朴湯 香蘇散
	気虚	意欲低下、食欲不振	補中益気湯 人参湯類 桂枝湯類
血の異常	瘀血	月経異常、腹部膨満感、細絡、痔疾、皮膚の色素沈着	桃核承気湯 桂枝茯苓丸 当帰芍薬散
	血虚	集中力低下、顔色不良、皮膚の乾燥と荒れ、色素沈着 疲れやすい	四物湯類 芎帰膠艾湯 十全大補湯 当帰飲子 温清飲
水の異常	水毒	浮腫、尿量の異常、頭痛、めまい、関節痛	五苓散 防己黄耆湯 苓桂朮甘湯 真武湯

男性の冷え

	症例	年齢 (歳)	症状	薬方	症状改善期間	併用薬
1.	S.K	40	下痢	人参湯、真武湯	4ヶ月	
2.	T.R	41	下痢	六君子湯	3ヶ月	
3.	M.I	51	右中指痛 足先のしびれ	八味丸 柴胡桂枝湯	8ヶ月	
4.	S.I	82	右下肢痛	附子理中湯	5ヶ月	
5.	S.N	47	足腰の冷え しびれ	当帰四逆加呉茱萸生姜湯 回首散加附子 苓桂朮甘湯	1年半	
6.	S.Y	47	6年前より痛風	当帰芍薬散、麻杏薏甘湯	7ヶ月	ザイロック 5ヶ月
7.	K.K	74	食思不振 全身倦怠	附子理中湯	5ヶ月	
8.	I.T	62	4年前より 高血圧	釣藤散 桂枝茯苓丸	2週間	ノルバスク 51T 1ヶ月
9.	M.T	65	高血圧	釣藤散	6ヶ月	
10.	S.S	13	やる気がしない だるい	柴胡桂枝乾姜湯 桂枝加竜骨牡蛎湯	5ヶ月	
11.	M.K	41	やる気がしない 9年前よりうつ病	人参湯 桂枝加竜骨牡蛎湯 甘麦大棗湯	3年	抗うつ剤 1年

四逆湯

症例 四十歳 主婦

主訴 下痢

X年7月30日

午前の外来が終わった時、外出先から帰ってきたら電話があり、義姉がたれ流しの下痢で廊下に座って動けないので往診に来て欲しいという。汚物は水の様で、固形物の混入は殆どないという。

薬局に四逆湯の煎剤を作ってくれるよう頼んで、往診に出かける。

身長155 cm 体重80 kg 意識もうろう 脈扪 血圧触診で80 手足厥冷

娘に薬局へ（出来上がる頃なので）薬をもらってくるように指示する。一口服用すると脈に力が出て、薬を飲み終わると「私なぜここに居るの？」（風呂場で腰を洗っていた）という。

昨夜は暑かったので、冷房をつけっ放しで眠った。朝八時、玄関の掃除をして咽が乾いたので、冷蔵庫で冷やした水をガブガブと飲んだ。一時間程して下痢が始まり、始めのうちは普通の水様便だったが下痢が何回も続き、そのうちにトイレまで行くの間に間に合わなくなって廊下に座り込んだ状態になったという。

それだけの話をしてくれたときには、下痢も止まり正常な状態に戻った。

残ったあと一服の薬を夕方飲むように指示して帰宅した。

夕方、先ほどはありがとうございましたと礼を言いに来た。

茯苓四逆湯

症例 主婦 48歳

主訴 悪寒

7月21日 午後十時

昨日、かぜをひいたのか悪寒がひどく発熱 37.8°C 往診に来てほしい。部屋には冷房が入っていて、患者はストーブの前に立って体をあたためているが寒いという。

脈拍120 / 分 血圧140 / 60 脈浮弱

処方薬が決まっていないので、血管を確保してから考えようと思つて、点滴5%糖500 mLにペルサンチン1Aを施行。

200 mL輸液が入った時、意識がもうろうとなり、鼻呼吸が始まり血圧測定不能。脈芤。

四逆湯を練って舌の上に置く。脈快復し血圧84 / 60 (触診) で煩燥あるため、茯苓四逆湯煎剤を服用させて帰宅する。

7月22日朝、茯苓四逆湯を飲んで朝食におかゆが食べられた。

午後往診に行き、血圧80 / 60 弦脈 脈搏80

人参養栄湯に変方。

真武湯

症例 主婦 50歳

X年8月2日

当院の待合室に腰かけていて、急に椅子からずり落ちてしまった。

常日頃は脂質異常で服薬しているが、特に他に異常はない方である。

脈沈細、血圧110／80 意識はあるが手足冷たい。

三和真武湯エキス 3g（2包）を服用してもらう。

脈は沈だが先より力が出て、血圧120／80となり元気に帰宅した。

四逆湯

症例 高校一年生 男子

初診 X年 7月 16日

気管支喘息で柴胡桂枝湯を普段飲んでる。

学校から帰る途中、雨に遭い濡れて自転車で帰宅して風呂に入ってから塾に行った。

夜になって喘息発作が出たので茯苓杏仁甘草湯煎剤を飲んだ。その晩は発作も軽くなり眠れた。翌日も茯苓杏仁甘草湯を飲んでるがいつもと違って息苦しさが取れないと救急車で運ばれ来院。

身長 168 cm 体重 55 kg 汗をかき呼吸困難 脈沈細

体温 汗をふいて 34.8℃ 意識もうろう 復力軟 血圧触診で 92 mmHg

四逆湯エキス 2gを舌の上のにせる。2〜3分で脈が浮いてきて、呼吸

困難も落ち着いてきた。血圧 100―60

そのままベッドの上で一晩過ごす。

翌朝、呼吸困難もなく食欲も出て小建中湯加附子を持って帰宅した。

一か月ほど小建中湯加附子を飲み続け、それ以来、冷房の使い方、食事のとり方、衣類の着方など注意するようになり、服薬はしていない。

30代になった今は、喘息発作は起こすことなく過ごす。

四逆湯

症例 主婦 48歳

主訴 嘔吐 下痢

X年8月4日

明け方嘔気がして目覚め、嘔吐した。その後も嘔気は止まらず朝食がとれなかった。9時頃より下痢が始まった。腹痛はないが、水様下痢が何回も出るので、不安で友人に連れてきてもらったと来院したが、すぐにトイレに駆け込んでしまった。

トイレから出ることが出来ず、トイレで診察開始。

中肉中背 脈沈微細、トイレへは自力で入ったのに、診察しているときは意識もうろう。

血圧触診で92―60 嘔吐が止まったので四逆湯エキス2gを舌の上に乗せる。

脈に力が出て血圧も110―70に回復した。

昨日会議があり、冷房の効いた部屋で十分な冷房対策をせず過ごした。帰宅してからも暑かったので冷房をつけたまま寝たという。

附子理中湯

症例 主婦 78歳

主訴 意識がない

X年7月24日

一ヶ月前肺炎で入院し、肺炎は治ったが元気が出ず、家で死にたいと言うもので、一週間前退院してきた。今まで病院からもらった薬を飲んでいたが、今朝から意識がないので往診してほしいという。

小柄でやせて、意識ははっきりしない。

脈沈細 腹力軟 心下痞硬著明 振水音(+) 血圧110―60

人参湯エキス6gに加工附子1gを加えて分3にして薬局から届けてもらい、ペースト状に練って舌の上に置く。脈に力が出てきたので帰宅する。

それから一時間ほどたって本人がのりまきを食べたいと言うのだけどころしようと言った。今まで食べていないから1〜2ヶでしようから食べてよいと言った。

翌日、往診に行くと、意識ははっきりとして朝食も昼食もおかゆを茶碗に一杯食べたという。

それから1〜2年生きた。

四逆湯

症例 男児 3歳

主訴 下痢

熱病歴

一週間前よりかぜを引き、近医で服薬治療を受けていた。2〜3日前より解熱したが下痢がとまらず止痢剤も効かない。今朝から下痢の回数が多くなりおむつをしていないと不安でおむつをしている。元気がなくぐったりしてうつらうつらと眠っていて、起こしても眠っているので病院に連れていこうとしたら、となりの住人から当院へ連れて来られた。

来院時所見

3歳児として標準の体格 顔面蒼白 手足冷たく、ベットに寝かせたら動くことなくうつろな眼をしている。脱水気味。

便は小水のように色も形もない。

脈 沈微細 体温 34.5℃ 非常に危険な状態である。

経過

四逆湯エキス1gをペースト状に練り舌の上に置いて様子を見る。

2〜3分経って眼を開き脈浮弱となった。体温 35.8℃となった。危険な状態は脱した。砂糖水を作って服ますことができた。腹が痛むという。

四逆湯を予備に一服持たせて大建中湯エキス5gを分3にして服用するよう指示して帰した。

夕方母親から電話があり、あれから眠って9時間になりますが、このままでよいのでしょうかという。顔色はいつものようにもどり下痢もなくなき気持ちよさそうですという。起きるまで寝かせてくださいといって電話を置いた。

翌日、母親からおかげさまでいつものように元気になり、下痢も腹痛もなく朝食を食べましたと電話があった。

真武湯

症例 会社員 男性 55歳

主訴 体に力が入らない 倒れそうになる

X年8月7日

現病歴

5日前会議中に急に意識が遠のき倒れてしまい、病院に運ばれた。疲れでしようと言われて点滴注射を受け、薬をもらって帰宅した。

病院の薬を飲んでいるのだが、地に足がついていないような感じがして倒れそうになり体に力が入らない。妻に「漢方じゃなくちやダメよ」と言われて来院したという。

来院時所見

身長 177 cm 体重 65 kg 脈沈細 舌候 やや浮腫気味 腹候 腹力中等度

真武湯圧痛 (+)

斜行感 (+) 浮遊感 (+) めまい感 (+) 地震感 (+)

経過

真武湯エキス 7.5g 処方。

一週間後来院。フラフラすることもなく体に力が入るようになり自分の体になったと二週間持つて帰り来院せず。

当帰四逆加呉茱萸生姜湯

症例 主婦 82歳

主訴 左下腹部痛

X年7月25日

十日程前より左下腹部に痛みが出はじめた。下痢も便秘も嘔気・嘔吐もない。発熱もない。近医で検査を受けたが異常なく、治療を受けているが痛みは取れない。主治医から当院へ行くようにと紹介されて来院。夫と死別後、子供もなく老人施設に入所して一年になるという。空いていた部屋は北側で日光が当たらないので寒い。食事と集まりの時と外出しなければ部屋に居るので寒い。部屋では冷房は使っていない。

身長 150 cm 体重 43 kg 手足冷たい

脈候 沈微細 舌候 無苔 腹候 腹力軟 腹直筋緊張左右(十)

左鼠蹊部に索状に抵抗と圧痛(十) (当帰四逆加呉茱萸生姜湯の圧痛)

経過

当帰四逆加呉茱萸生姜湯エキス 6gを分2にして朝夕に処方。

一週間後来院。一回飲んで痛みが殆ど感じなくなり、二服目をのんで痛みが取れた。薬はにがいといわれて飲んだが、ちっとも苦いことなくのんでいたが、昨日からにがなくなってきたという。左下腹部の抵抗と圧痛は消えていた。予備に薬を持っていたと三日分持って帰っていった。

真武湯

症例 主婦 42歳

主訴 頭痛と嘔気

X年6月20日

朝起きたとき、前頭部痛がして風邪をひいたのかと思つて熱を測つたが36.4℃。咽頭痛も咳も出ないので寝ていれば落ち着くかなと思つて横になつていた。食欲もないので朝食はとらなかつた。口渇(一) 嘔気・嘔吐・下痢・腹痛もなかつた。

10時頃、嘔気が出はじめ、めまい感(一) 下痢が始まり、腹痛なし。友人が来て病院へ連れていくと言われたが、当院へ連れて行ってほしいと頼んで来院したという。

身長160cm 体重50kg 頬に赤味がある。脈候 沈細 舌候 無苔

腹候 腹力中等度 心下痞硬(+) 真武湯圧痛(++) 腹直筋緊張(+)

苓桂朮甘湯エキス3gを昼に、真武湯エキス6gを分2にして朝夕に服用とする。

二日後来院して、一日のんでよくなったと礼を言うため来院した。

藥方

○四逆湯

甘草 3 乾姜 1 附子 1

○茯苓四逆湯

甘草 2 乾姜 2 附子 1 茯苓 4 人參 2

○附子湯

附子 1 茯苓 4 芍藥 4 朮 5 人參 3

○真武湯

附子 1 茯苓 4 芍藥 4 生姜 3 朮 5

○附子理中湯

人參 3 甘草 3 朮 3 乾姜 2 附子 1

○麻黃附子細辛湯

○桂枝湯

○当歸四逆加吳茱萸生姜湯

○柴胡桂枝湯

○柴胡桂枝乾姜湯

○苓桂朮甘湯

○苓姜朮甘湯

○八味丸

○桂枝茯苓丸

○桃核承氣湯

○当歸芍藥散

○五積散

○加味逍遙散

○四逆散

○溫經湯

○人參湯 ○四君子湯 ○六君子湯 ○人參養榮湯

○小建中湯

○大建中湯

○安中散

○五苓散